



公益財団法人 長崎平和推進協会
<https://www.peace-wing-n.or.jp/>

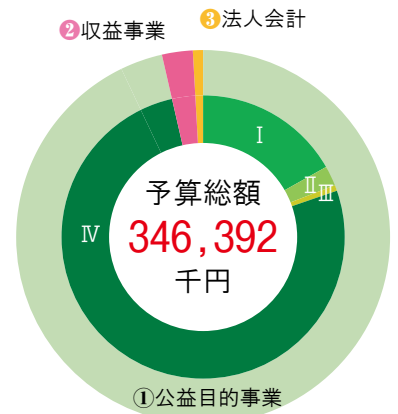
- 平成31年度 長崎平和推進協会の予算・事業計画
- アジア青年平和交流事業2018 ■ 長崎国際平和映画フォーラム2018
- 平和案内人と長崎平和ガイド初の合同研修
- 長崎平和推進協会設立記念事業「松瀬学氏講演会」
- アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム成果報告 ■ 市民対象碑めぐり
- あったかい寄付！ ■ 来訪者コーナー ■ 会員の広場
- TOPICS! (外国語ボランティアガイド(英語) 原爆資料館内案内研修ほか)



平成31年度 長崎平和推進協会の予算・事業計画

当協会の予算の大部分を占めているのは、①公益目的の事業です。公益目的の事業は、当協会が独自に行っている平和推進事業、長崎市からの2つの受託事業（長崎原爆資料館原爆・平和総合案内業務、長崎原爆資料館図書資料収集整理業務）、国からの受託事業（国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業）の4事業で構成されています。その他に、②収益事業として原爆資料館内の売店を運営し、利益の50%を平和推進事業に繰り入れられており、③法人会計とは協会全体の管理・運営を行う会計です。

平成31年度は、新しい5つの事業が長崎市から受託されます。また、9月から原爆資料館指定管理者制度が導入されることから、受託事業の長崎原爆資料館原爆・平和総合案内業務、長崎原爆資料館図書資料収集整理業務及び収益事業が8月までとなるなど、当協会にとって、変化のある年度となります。



I 平和推進事業

支出 (単位：千円)

	金額	前年度差
平和推進事業会計	56,832	23,764
1 発刊事業費	1,130	△ 214
2 啓発事業費	6,116	4,817
3 調査研究費	55	△ 45
4 育成事業費	20,043	12,495
人件費・事務費	29,488	6,711
法人会計	2,825	373
支出計	59,657	24,137

収入 (単位：千円)

	金額	前年度差
長崎市からの補助金	28,210	1,110
会費	4,796	169
受託事業収入	24,855	22,689
寄付金	684	△ 81
その他	512	500
収益事業からの繰入	600	△ 250
収入計	59,657	24,137

皆さまからいただいた会費や寄付金は、平和推進事業と法人会計で使われます。左の表は2つの会計の収入と支出を表しています。



4 育成事業



- 平和案内人育成事業
被爆75年から活動を開始するため、第7期の平和案内人育成事業を行います。
- 平和案内人派遣事業
案内を希望される方に対し、長崎原爆資料館、追悼平和祈念館等の説明や被爆遺構の碑めぐりを行う平和案内人を派遣します。
- 部会活動
協会会員の自主的活動を図るための4部会の活動を支援します。また、米国国立公文書館資料検証業務を長崎市から受託します。
- 平和事業への支援
協会の活動趣旨と一致する事業などへ支援します。
- 秋月グラント
被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体などへ支援します。

- 語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業
- 青少年ピースボランティア育成事業
- 青少年ピースフォーラム事業
- 青少年平和交流（少年平和と友情の翼）事業

1 発刊事業



会報「へいわ」（年4回）、協会の事業概要をまとめた「平和のあゆみ」、情報BOX（月1回）の発行等により情報発信を図ります。

2 啓発事業



- 平和学習の実施
被爆体験講話者や外国語ボランティアガイドの派遣、平和学習用のDVD・長崎原爆被災写真パネルの貸し出しを行います。
- 国連軍縮週間行事
国連軍縮週間に合わせて「市民のつどい」を開催し、戦時食、平和のメッセージを紙風船に書くコーナーなどを行います。
- 講演会等の開催
平和への認識を高めるための講演会を催します。

新 県外原爆展の開催

3 調査研究

平和・軍縮関係の会議やシンポジウム等に参加し、情報収集や関係機関との交流・意見交換を図ります。

Ⅳ 追悼平和祈念館運営事業



平成 15 年に開館した「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」の管理・運営を国から受託します。

平成 31 年度は、被爆体験記や被爆証言映像の収集など、今しかできない事業を拡充していく予定です。

Ⅱ 長崎原爆資料館運営事業

長崎市から受託し、原爆資料館展示室の観覧料徴収や正面玄関での総合案内業務を行います。



Ⅲ 原爆資料館図書資料収集整理業務



長崎市から受託し、原爆資料館の図書室で、原爆や平和に関する図書・資料の整理・選定、情報提供を行います。

収益事業（原爆資料館書籍販売コーナー）

原爆資料館の売店で原爆や平和に関する書籍・グッズを販売しています。利益の 50% は平和推進事業の財源に充てています。



新しい5つの事業紹介！

県外原爆展



原爆について触れる機会の少ない県外で、被爆体験講話や、写真パネル・被災資料の展示を行い、核兵器廃絶と平和に対する意識の高揚を図る事業。

これまででも協会と共催で実施しており、被爆者が開催地を訪れて自らの体験を話す他、写真資料調査部会員による写真資料等の解説案内を行っている。

語り継ぐ被爆体験推進



被爆者の体験や思いを受け継ぎ、次の世代へ伝えていく人材の育成を支援する事業。今後、協会の継承部会と密接に連携して取り組むことで、より事業の拡がり、継続性が高まると期待される。

なお、当該事業で育成された家族・交流証言者を市外・国外へ派遣する事業を、祈念館で行っている。

青少年ピースボランティア育成



中学生を除く 15 歳以上 30 歳未満の青少年が、原爆や戦争について学び、様々な視点から平和について考える事業。被爆体験の継承と、平和意識の高揚を図ることを目的としている。

これまででも協会と共催で実施しており、被爆者と若者を繋ぐことで協会のネットワークを広げることが期待できる。

青少年ピースフォーラム



8 月 9 日の平和祈念式典に合わせて、全国の自治体が派遣する青少年と、長崎の青少年と一緒に被爆の実相や平和の尊さについて学び、交流を深めることで、平和意識の高揚を図る事業。青少年ピースボランティアがホスト役を務め、会の進行や案内を担当する。

これまででも協会は共催している。

青少年平和交流（少年平和と友情の翼）



長崎市内の中学生を沖縄県に派遣し、沖縄の戦跡や平和施設の見学、青少年との交流等を行うことで、次の時代を担う少年少女の平和を希求する心を醸成する事業。3 年に 1 回実施している。

参加者は青少年ピースフォーラムにも参加するので、青少年ピースボランティアに繋ぐことも期待できる。

自分たちが考える 国際・平和交流プログラム

「自分たちが考える国際・平和交流」をテーマとして長崎の若者自ら企画した事業を行ってもらうこの事業に取り組んだ3チームが、3月3日成果報告を行いました。

各企画とも若者らしいユニークで独創的な発想により、被爆の実相を長崎在住の外国人だけでなく国際的に伝えたいという思いが込められていました。被爆体験交流証言や人工知能(AI)技術を活用したモノクロの被爆写真のカラー化、尾曲がりネコのマスコットキャラクターによる動画などによって、人種の違いや戦争の被害と加害を超えて相互理解を深めようという意欲を感じると同時に、具体的な成果が得られているように思います。来年度は更に多くの参加を期待しています。

審査委員長 船山忠弘



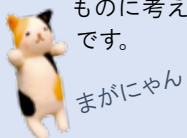
長崎県立大学シーボルト校金村ゼミ
Peace Piece プロジェクト



尾曲がり猫、まがにゃんがインタビュー！
平和活動についての動画を作成

「PeacePiece (ピースピース) プロジェクト」は、平成27年度から継続している、長崎県立大学国際社会学部・同学科の金村ゼミによる平和発信プロジェクトです。毎年様々なメディアを活用して平和を伝え、つなぐ活動を行っています。今年度は平和に「ふれる」をコンセプトにWeb向け動画「Touch!～長崎ネコとピース探し～」という映像作品を制作しました。ネコのマスコットキャラクターをメインとして、画面に触れなくなる工夫を散りばめています。夏から取材をはじめ、映像の撮影・編集等、どうすれば視聴者に私たちの思いを伝えられるか、何度もメンバーで話し合いを重ね、作り上げました。この作品をきっかけに平和を身近なものに考えてもらえると思います。

(長尾瑞希)



活水高等学校平和学習部
ふりそでプロジェクト

人工知能(AI)を使って
原爆写真を色付けし身近なものに

私は今回の事業を通して2つのことを考えました。1つ目は、自分たちで計画を立てて企画を成功させることの重要性です。今回、初めての試みで不安だけでしたが、部員のみんなが協力してたくさんの意見も交えて計画を進めることができましたので、とても有意義だったと思っています。2つ目は、異国間との意見交換によって自分とは違った意見を得ることができたことです。私の班には中国人の学生が2人いました。実際に討論をしている中で、私と彼らの意見は全く異なっていました。しかし、お互いの意見を聞くことで自分とは違った視点から平和について学ぶことができました。この企画にご協力いただいた多くの方に感謝申し上げます。この企画を大きな一歩として、私たちの活動の発展や平和な世界の実現に向けて精進していこうと思います。(田中蘭)



長崎純心大学
Green Pieces



外国人と若者が一緒に平和について考える
「Peace Forum」を開催

PeaceForumのきっかけは、以前制作した英語版の平和に関する電子パンフレットでした。外国人の感想から、平和に対する考え方の違いを実感し、長崎でお互いの考えを共有し話す機会を設けたいと思いました。参加者43人は長崎の高校・大学生や、アジアをはじめとした多国籍の外国人です。よって、司会、交流証言者からの講話、話し合い等すべて英語を用いました。平和に関する5つのテーマを各グループで1つ話し合い、最後にはポスタープレゼンテーションを行いました。

また行って欲しいという感想をいただき、会の成功と平和への発信ができたことへの喜びを感じております。この事業に関わったすべての方々に感謝の意を表し、御礼申し上げたいと思います。(迎祐佳)



上映作品

「母と暮せば」
「夕凧の街・桜の国」
「父と暮せば」
「硫黄島からの手紙」

9 回目を迎えた「長崎国際平和映画フォーラム」は、音楽部会による合唱で幕を開けました。映画は、親子愛・友情をテーマに4作品を上映しました。無名塾の松崎謙二氏らによる朗読劇、昨年引き続き写真家ポーレ・サヴィアーノ氏による写真展、フォトワークショップも開催し、約1100人が来場しました。



ポーレ・サヴィアーノ写真展「FROM ABOVE」

映画フォーラムとの関連企画として3年連続で写真展を開催し、これまでに撮影したうち24人の被爆者のポートレートを展示しました。

撮影した被爆者とその遺族も多く訪れ、サヴィアーノ氏と記念写真を撮るなど再会を喜びました。また、サヴィアーノ氏から撮影当時の様子を聞く遺族の姿も見られました。



被爆者を撮り続けて10年
写真家

ポーレ・サヴィアーノ
写真展「FROM ABOVE」
フォトワークショップ

ポーレ・サヴィアーノ氏とは!?



ニューヨークを拠点として活動している写真家。12歳より写真を撮り始め、歴史的な事件や社会問題のメッセージを発信している。「FROM ABOVE- 上空より」プロジェクトでは、被爆者や空襲体験者を撮影。当協会関係者だけでも40人以上の被爆者のポートレートを撮影し、来崎の度に被爆者の撮影を続けている。プロジェクトの一環として、写真展開催や写真集の出版を行う。

Reason for starting project - プロジェクトを始めた理由

最初に長崎を訪れたのは2008年9月でした。原子雲の下で人々に何が起きたのか、どのようにしてあの日の記憶と共に生きてきたのかを学びたいと思いました。この時に会った11人の被爆者の鮮烈な印象は、今も忘れられません。

私が学校で原爆について教わったのは、広島・長崎の原子雲の写真と、投下日時、統計だけでした。アメリカでは「原子爆弾は第二次世界大戦を終わらせるために投下した」と教えられます。原子雲の下にいた人々に実際何が起きたかは、何も言及されていません。



The goal of FROM ABOVE - FROM ABOVE の目的

FROM ABOVE プロジェクトの目的とは、歴史上起きた事の被害者として片づけられてしまっている被爆者の存在を明確に歴史に記録することです。私たちは戦争をデータや統計のみでとらえ、戦争が人間にもたらす真の影響を忘れがちです。

第二次世界大戦の体験者から「戦争は有益ではない」と直接学べる、今が最後の機会です。

この活動で「戦争に苦しむ人々の想いは共通である」と感じました。撮影後に亡くなった被爆者もいますが、写真を通して彼らの叫び、物語と対話することができます。話す言語は異なっても、写真は全世界の共通語なのです。

過去の出来事から学ぶことは大切なことです。同じ過ちを繰り返せば、同じ空の下に生活する、全世界の人々に影響を及ぼすのです。私たちは、戦争によって命を落とした人々、その後の人生を変えられた人々の存在を忘れてはなりません。長崎と広島を教訓を決して忘れないことこそ、彼らに対する最大の敬意です。戦争によって互いの相違を解決するという、正当化された言い訳を容認してはなりません。

最初の訪問から10年以上が経ちますが、今も撮影のために長崎を訪れ、外国で暮らす被爆者の撮影も行っています。今後も撮影は続けていきます。

MORE PEACE in 2019, Paule Saviano



この度、追悼平和祈念館地下1階の回廊で、サヴィアーノ氏の写真を常設展示することになりました。被爆者お一人おひとりの表情をぜひご覧ください。

長崎平和推進協会設立記念事業
松瀬学氏 講演会「平和とスポーツ」



2月10日、長崎原爆資料館ホールで、長崎県出身でスポーツジャーナリストの松瀬学氏による講演会を開催しました。松瀬氏はラグビーワールドカップ2019日本大会の元広報戦略長も務められ、大会の盛り上げに多方面から尽力されています。講演会では、豊富な取材経験をもとに、大谷翔平選手、長嶋茂雄元監督などを引き合いに、「一流選手の特徴は、素直さ、インナーピース(心の平穏)をもっていること」と、一人ひとりが平和な気持ちを持つことの大切さを語りました。

最後に、「スポーツができるのは平和があつてこそ」と力説され、「長崎から平和の発信をして欲しい!」と締めくくって終了しました。

「ゲンバクとよばれた少年」の筆者：中村由一氏を迎えて
平和案内人と長崎平和ガイド初の合同研修



1月19日、長崎原爆資料館平和学習室で平和案内人全体会を実施しました。平和案内人は年3回程度、原爆・平和に造詣の深い方を講師に招いて、研修を行っています。

今回初めて、修学旅行生を対象に案内を行っている長崎平和ガイドにも参加を呼びかけました。

研修には中村由一氏をお招きし、被爆と部落問題の二つの差別体験についての講話をいただきました。原爆の影響と出身地に対する差別で苦しめられたこと、二度と自分のような辛い人生を歩む人を生み出してほしくないという思いを熱く話され、参加者からは今後の活動に活かしていきたいなどの感想が寄せられました。

被爆者自ら被爆遺構を案内する
市民対象碑めぐり



コース

中央公園

真宗大谷派
長崎教務所

長崎県防空本部跡
(雨天のため中止)



3月10日、継承部会原爆遺跡研修班が「市民対象碑めぐり」を実施しました。前日夜からの雨で開催が検討されましたが、約40人が集まったこともあり、一部コースを変更して行われました。

築町・江戸町周辺の建物疎開の状況などは中央公園周辺で説明しましたが、雨が強かったため、真宗大谷派長崎教務所へ移動しました。教務所の一室をお借りして、防空壕についてなど一部補足説明を行った他、教務所に遺骨が集められた経緯などが紹介されました。最後に「非核非戦」の碑の下に納められた遺骨を特別に見せてもらい、参加者は合掌して追悼しました。遺骨を見た一人は、「この人たちにとって戦争は終わっていない」とつぶやいていました。

核兵器を廃絶するために、自分たちができる取り組みとは
APN 成果報告 in ピースネット



2月24日、「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム(APN)」の活動結果及び成果報告を行いました。

プログラムに参加したマレーシア・韓国・中国の大学生らが、昨年11月に行われた「第6回核兵器廃絶地球市民集会ナガサキ」での経験を基に、彼ら実際に取り組んだ内容や成果を報告しました。今回は、3国と祈念館をインターネットで繋ぎ、それぞれの場所から発表する初めての試みでした。各チームが課題に対して真剣に取り組んだことが感じられ、また他国の取り組みについても様々な関心を持って、活発な質疑応答が行われました。

来訪者コーナー



リティ・パン監督

カンボジア出身で著名な映像監督であるリティ・パン監督が、この度、協会を訪ねてこられました。

監督は、「消えた画 クメール・ルージュの真実」で第66回カンヌ国際映画祭グランプリ(ある視点部門)を受賞、さらに第86回アカデミー賞では外国語映画賞にノミネートされた、映画界では巨匠と言われる映画監督です。

彼の新作は、被爆者をテーマに構想を練られており、「原爆のように、人間が人間に与えた極限的な暴力について考察する映像表現」を模索されているそうです。彼の熱く語る言葉には、カンボジアの悲劇と原爆の悲惨なイメージが複雑に重なり合います。パン監督の被爆者をテーマとした新作の映画、その完成を大いに期待するものです。

(高比良)

長崎平和推進協会では、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて取り組む平和活動を行うため、みなさまから寄付を募集しています。

今年度も、心温まる寄付をいただきました。皆さんの気持ちを大切にしながら平和のための活動を行っていきます。

詳しい活動は、2～3ページをご覧ください。



川根中学校教諭

静岡県島田市立川根中学校のみなさんより

川根中学校は、静岡県の井川沿いにある小さな学校で、お茶や山の緑がきれいな地域にあります。毎年、2年生が授業でサツマイモを植え、収穫したものを文化祭で販売し、売上金を募金しています。本校に郵送された会報「へいわ」を拝見し、皆様の活動を知りました。本校はここ数年長崎で、語り部の方に被爆体験講話をお願いしておりましたので、生徒に提案し、今年の募金を平和推進協会様にすることにしました。また5月の修学旅行で語り部の方や、ガイドの方にお世話になります。

長崎で被爆し亡くなった女子学生たちをテーマに自主制作したCD「命の花」の売上金を長崎平和推進協会へ寄付しました。自分に出ることで平和に役立つことをしたかったからです。父親の被爆体験を聞いてきたこともあり、大学時代から平和の歌を作ってきました。被爆者がだんだんいなくなってきた今、これからは被爆2世、3世の自分たちが動かなければいけないという使命感もあります。自分ができる平和活動として、これからも歌い続けていきます。

北城裕士



北城裕士さんより

長崎平和推進協会は、特定公益増進法人に該当するため、寄付者は所得税や法人税の寄附金控除を受けることができます。

NO. 9



お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内をお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp

〒852-8117 長崎市平野町7-8

長崎平和推進協会「会員の広場」係

奥村 健二

私はある地域の民生委員を仰せつかっている。月に一、二度ひとり暮らしの高齢者宅を巡回し、話し相手になりながら、心身の健康状態や日常生活の様子を聞き取りしている。いずれも玄関先での面談であるが、ひととおりの話しを終え、帰ろうとすると次の話題を投げかけられ、お暇(いとま)をいただけない時もある。しかし考えてみると、このようなたまご話し相手になることが大切であり、わずかにも信頼関係が生れるひと時だと言えるかも知れないのだ。

「へいわ」の記事を読み取ると、それぞれの方々が様々な平和活動に臨んでおられる姿がよく理解できる。

私は自分ができる地域の片隅で、ささやかながら和やかに活動のお手伝いを続けて行こうと思っている。



Peace Wing Nagasaki
会員の広場

外国語ボランティアガイド(英語) 原爆資料館内案内研修を実施

1月から1ヶ月間、外国語ボランティアガイド(英語)の研修の一環として、原爆資料館内のガイドを実施しました。英語で積極的に声を掛け、チケットの購入方法の紹介や展示室入口への誘導、展示品の説明など、外国人観光客をサポートしました。今回初めての試みでしたが、育成講座などで培ってきた知識を活かす研修となりました。この実践で学んだことや反省点を踏まえながら、今後の活動に繋げていきます。



第9回体験記企画展「女性たちの原爆」



第9回体験記企画展「女性たちの原爆」では、追悼平和祈念館に寄せられた5名の女性が綴った手記や資料、厚生省(当時)が収集し当館で公開している手記を展示し、女性であるがゆえに味わった多くの苦悩と、原爆の惨状、平和への思いを伝えます。体験記に関連する貴重な資料の展示もあります。

ぜひご来館ください。

日時：1月30日～12月25日 8:30～17:30(5月～8月 8:30～18:30)

場所：追悼平和祈念館地下2階 遺影・手記閲覧室

【問合せ】追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055

第67回 長崎市民美術展・写真部門長崎市長賞を受賞した川上さんにお話を伺いました

追悼空間(追悼平和祈念館)の床の虹に出会ったのは2016年10月30日14時頃でした。この虹を写真に撮りたいと何回も撮影に通い、2018年2月27日「床の虹」、3月17日「ガラス柱に斜めに虹が差し込んだ写真」など、3枚の写真を併せて長崎市民美術展に出品しました。この作品が最高賞の長崎市長賞を頂いたのは本当に光栄でした。この写真を見て2月と10月に現れる長崎原爆犠牲者を追悼する虹を見に追悼祈念館の来館者が1人でも増えたら幸甚です。

川上正徳

---- 追悼空間の虹 ----



世界の核弾頭の数(2018年6月1日現在)

ロシア	米 国	フランス	中 国	英 国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合 計
~6,850	~6,450	300	270	215	80	~140	120~130	10~20	~14,450

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1062人
- ◎賛助会員 147人
- ◎学生会員 10人

(平成31年3月20日現在)

賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

(敬称略)

- ◎北城 裕士 一万円
- ◎上西 和紀 一万円
- ◎静岡県島田市立川根中学校 2年生 四千元
- ◎匿名五人 一六、二〇〇円

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

平成31年度分の会費納入書を4月末にお送りしますので、最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

お支払いただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。事務局までご連絡ください。

